

SSL G Bus Compressor

大型コンソールのダイナミクスを得る

スタジオ用コンソールとして世界で最も成功したといえる SSL 4000 G コンソールに搭載されたバスコンプレッサーを完全プラグイン化。Solid State Logic 社と Universal Audio 社との正規なパートナーシップによって、G シリーズのマスターコンプレッサーのドライブ感に溢れ、パンチの効いたサウンドがコンピューター上に再現されます。エンジニアは、ドラム、ピアノや他の楽器のミックスで他の機材では実現できないような効果を得られるこのマスターコンプレッサーを頼りにしていました。

UAD-2 のプラグイン SSL G Series Bus Compressor はシンプルで直観的な操作感とクリアなコンプレッションキャラクターを備え、驚愕の正確性を持ち SSL アイコンのサウンドを再現します。プラグインのコントロールは固定のコンプレッションレシオは(2:1、4:1、10:1)から選択し、プログラムに依存するオートリリースと共にアタックとリリースが機能します。スレッショルドコントロール、メイクアップゲイン、コンプレッサーバイパス、及びオリジナルのオートフェード(1~60 秒)の特徴は完璧な操作性を提供します。

SSL G Bus Compressor スクリーンショット



Figure 150. The SSL G and 4K Bus Compressor プラグインウィンドウ

SSL G Bus Compressor コントロール

スレッシュホールド(Threshold)

スレッシュホールドはコンプレッションを始めるシグナルレベルを設定します。このレベルを上回るシグナルはコンプレッションがかかり、下回るシグナルはエフェクトの影響を受けません。コントロールレンジは±15dBです。

スレッシュホールドが低い値になり、より多くのコンプレッションが行われると、多くの場合出力が下がります。必要に応じてメイクアップコントロールを使用して出力音量を調節してください。



メイクアップ(Make Up)

メイクアップは、プラグインから信号を出力するレベルを0dB~+15dBの範囲でコントロールします。

一般的に望ましいコンプレッションの量がスレッシュホールドとレシオによって調節したあとにメイクアップの調整を行ってください。メイクアップはコンプレッションの量に影響を与えません。

アタック(Attack)

アタックはコンプレッションが行われる前に、入力された信号がスレッシュホールドで設定したレベルに達してからコンプレッションが行われるまでの時間を設定します。アタックの値が速いほどコンプレッションが行われるタイミングが早くなります。選択可能なアタックタイムは、0.1msec、0.3msec、1msec、3msec、10msecと30msecです。

(他のコンプレッサーと比べて)比較的遅いアタックタイムの有用性は、大きなコンソールのVCAスタイルコンプレッサーでポピュラーなサウンドを提供します。

リリース(Release)

リリースは入力された信号がスレッシュホールドレベルを下回った場合、コンプレッション効果が終了するまでの時間の長さを設定します。長いリリースタイムを設定する場合には滑らかな効果を得られ、それは頻繁にピークを越える音源に対して効果的です。しかしリリース時間が長すぎた場合、音量の大きい部分によって起こるゲインリダクションがそれ以降の部分にも影響し、小さい音量のレベルをさらに下げてもうかもしれません。

設定可能なリリースタイムは100msec、300msec、600msec、1.2secとオートです。

SSL G Bus Compressorのオートリリースの特徴は入力されるプログラムの質に応じてリリースタイムを最適化させる独特のクオリティを持っています。

レシオ (Ratio)

レシオはコンプレッサーで処理する圧縮量を設定します。例えば、20dBで入力された信号を10dBにまで下げるにはツマミを2の位置にすると入力値は半分になります。(圧縮比率は2:1)

設定可能なレシオ値は2:1、4:1と10:1です。



パワー (Power) 「IN」

パワーボタンはプラグインが動作中かどうかを決定し、表します。プロセッサーを無効にするにはパワーボタンをクリックしてください。パワーはエフェクトによって処理された音と、元の音を比較する場合に役立ちます。

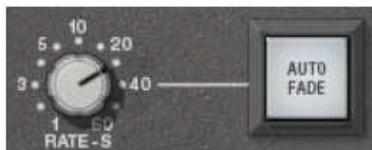
ゲインリダクションメーター (Gain Reduction Meter)



ゲインリダクションVUスタイルメーターはコンプレッサーで処理されているゲインリダクション量を表示します。より高い値は多くのゲインリダクションを示します。

プラグインの信号レベルを上げたり、またはゲインリダクションを増やすにはスレッシュホールドの値を下げてください。

フェード (Fade)



SSL G Bus Compressor は、起動すると自動的にフェード機能も起動し、自動的に指定したタイムの範囲内でプラグインの出力を最低限に抑えます。この機能はサウンドをとて滑らかにフェードイン/アウトさせることができます。オートの設定も可能です。

フェード機能は、コンプレッサーのアウトプットでシグナルを処理します。アウトプットのフェードシグナルレベルは、指数曲線を備えています。

フェードレート(Fade Rate)

フェードレートは、ミニマムまで減少していく(フェードインの場合は 0dB まで上がる)フェードボタンとプラグイン出力レベルの間が経過する時間を設定します。1 秒～60 秒の間で設定可能です。

フェードタイムは設定されているフェードレート値を反映します。したがって始まっているフェードアウトは、フェードアウトするまでの間にフェードレートを変更することによって速めることが可能です。また、フェードインはフェードインをしている間にフェードレートを変更することによって速めることも可能です。

オートフェードボタン(Auto Fade Button)

オートフェードボタンを有効にするとフェードアウトを始めます。フェードアウトタイムはフェードレートパラメーターで設定することが可能です。フェードアウトが進行中の時、フェードボタンは点滅し、フェードアウトが終了(フェードレートタイムが過ぎたとき)したときには連続的に点灯します。

フェードを無効(点灯したボタンをクリック)にするとフェードインを始めます。フェードインを行う間、シグナルレベルは現在のレベルから 0dB へと増加していきます。フェードボタンは、フェードインが実行中の場合、には光り、フェードインが完了した場合(フェードレートタイムが過ぎたとき)には消灯します。

フェードボタンを切り替えるとすでに始まっているフェードのアウトプットレベルをジャンプさせることなく命令を反対にすることができます。進行中のフェードが中断した場合でもフェードレートは同じです。例:フェードレート値が 30 秒でフェードアウトが開始された時でも、20 秒後に再びクリックするとフェードインし直すのには 20 秒かかります。

Tip: Shift + フェードボタンをクリックするとレベルは 0dB に戻ります。(この機能はオートメーション化することはできません。)

※UAD、UAD-1、UAD-2とUAD 4Kはユニバーサルオーディオ社の登録商標です。他のすべての名前はソリッドステートロジックの商標です。そしてそれはUniversal Audioと関連しない、または提携していません。

他のメーカーのこれらの商標はUAD 4Kのサウンドの研究開発を行うために回路やサウンドの特定のために使用されました。サードパーティの商標は情報の目的のみであってUniversal Audioのスポンサーシップやエンドースを意味するものではありません。